

2023年AUTOBACS GPR KARTING SERIES Rd.1/Rd.2

開催場所: 鈴鹿サーキット南コース

開催日: 5月27～28日

●鈴鹿サーキット南コース ●天候: 晴れ ●路面状況: ドライ ●参加台数: OK 23台 / Junior 15台 / Cadets 17台 / Shifter 12台



新たな転戦型シリーズとして、今季誕生した「AUTOBACS GPR KARTING SERIES」の開幕イベントとなる第1戦・第2戦が、5月27～28日に鈴鹿サーキット南コースで開催された。

このGPR KARTING SERIESは、より参加者ファーストのシリーズ戦を立ち上げようと、シリーズ統一プロモーターとして組織されたGPR (Global Promotion Race) がシリーズを統括し運営するもの。今季は4会場で5大会を開催する。

開催クラスは、カートレース最高峰のOKクラスを頂点に、OK昇格を目指すドライバーたちのジュニアクラス、小学生から参戦できるカデットクラス、そしてギアボックスカートを使用するシフタークラスの4クラス構成とされている。OKクラスには、翌年以降の4輪レース転向を視野に、スカラシップ制度も設けられ、4輪レースを目指すドライバーにとってはチャンスを掴むシリーズともいえる。

レースは、全クラスが1大会2レース制を採用し、レースフォーマットも通常のカートレースとは異なり、QP(タイムアタック)後は即決勝レースとなる。

[OK Rd.1] 鈴木悠太が逃げ切り初優勝！



今大会のOKクラスには、若手からベテランまで23名のドライバーが参戦し、初代の優勝者を競った。

2グループに分かれたタイムトライアルでは、鈴木悠太 (KOSMIC/TM) がA組トップ。B組では野澤勇翔 (BirelART/IAME) がトップタイムをマークする。各グループトップ4、計8人が出走したスーパーポールでは土橋皇太が最後の最後にトップタイムをたたき出し、第1戦のポールポジションを獲得する。

迎えた第1戦決勝は20周。スタートでは2番手スタートの鈴木が土橋に並びかけるものの、土橋がトップをキープし周回。しかし、ペースで上回る鈴木は早めに仕掛け逆転に成功すると、徐々に独走へと持ち込んでいく。後方では中井陽斗 (CL/TM)、鈴木斗輝哉 (EKS/TM) らが土橋に襲い掛かり、逆転。鈴木悠太を追っていく。

トップの鈴木悠太に対し、2番手に上がった鈴木斗輝哉がその差を縮めていくが、残り周回数が足りずに、鈴木悠太が逃げ切り優勝。2位鈴木斗輝哉、3位土橋となった。

●鈴木悠太／優勝ドライバーのコメント

スタートで前に出たかったのですが、土橋選手に先行されてしまったので、最終コーナーでの逆転を狙っていましたが、トップに立ってからは、後ろがバトルしてくれたこともあって引き離すことができました。午後も独走で勝ちたいですが、他の選手も速いので、もしバトルになっても強さを見せて勝ちたいです。

[Junior Rd.1] 澤田龍征が激戦の末優勝！



ジュニアクラスには15人が参戦。タイムトライアルでは昨年のJAFジュニア選手権カデットチャンピオンの澤田龍征がトップタイムをマーク。2位にジュニアチャンピオンの酒井龍太郎、3位に白石麗が続く。

16周で行われた第1戦決勝では、酒井がホールショットからレースを引っ張っていく。その酒井をピッタリとマークしたのが澤田。2周目の3コーナーではトップを奪う。その後澤田と酒井は幾度も順位を入れ替えていきレースは終盤へ。最後まで予想のつかないレースとなるが、最終ラップにはヘアピンで酒井がトップに立つものの、立ち上がりの加速が鈍ったところを澤田が並びかけ、クランクで先行。最終コーナーでの酒井の攻撃を退けた澤田が優勝を飾った。

●澤田龍征／優勝ドライバーのコメント

最後まで抜けると思っていたので、ぜんぜん大丈夫でした。このまま2連勝を狙います。

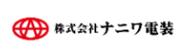
title sponsor



series sponsors



series partners



[Cadets Rd.1] 森谷永翔が大逆転で優勝！



小学生から出場できるカデットクラスには17人が参加。タイムトライアルでは鈴鹿選手権のカデットチャンピオン横山輝翔が僅差でトップタイムをマーク。2位に0.004秒差の林樹生、3位に松尾柊磨が続いた。

14周の第1戦決勝。好スタートを見せたのは林。以下横山、島津真央、松尾、森谷永翔と続いていく。タイムトライアルでは8番手に終わっていた森谷は、決勝で息を吹き返したか、6周目にはトップで戻ってくる。

その後森谷、横山、林、松尾らが接近戦を続け最終ラップへ。最終ラップ、ヘアピンでは横山がトップに上り、松尾が2番手へ。そのままバトルは最終コーナーへと向かい、ここで3番手につけていた森谷が大逆転でトップに出るとそのままチェッカー。劇的な優勝を飾った。

●森谷永翔／優勝ドライバーのコメント

最後はチャンスがあると思っていました。第2戦も勝てるようにがんばります。

[Shifter Rd.1] 豊島里空斗がポールトゥウィン！



タイムトライアルでトップタイムをマークしたのは、スーパーFJでも活躍している豊島里空斗。2番手に昨年の日本代表、東拓志が続く。

決勝は豊島が好スタートからリード。序盤から東を引き離し独走へと持ち込んでいく。2番手東、3番手安堂祐も単独走行で周回を重ねる。

終盤に入っても上位3台はほぼ等間隔で並び、豊島が逃げ切って初優勝を飾った。

●豊島里空斗／優勝ドライバーのコメント

独走していましたが何回かミスもあったので、次のレースへはそこをなくしていきたいです。次も勝つ自信はあります。

[OK Rd.2] 鈴木悠太が開幕2連勝！



決勝第2戦のスターティンググリッドは、第1戦決勝中のファステストラップ順。ポールポジションには鈴木斗輝哉が並ぶ。

しかしスタート直後の1コーナー進入で、鈴木斗輝哉と2番手スタートの土橋が接触。鈴木はスピンを喫し、リタイヤとなる。

トップは土橋。その土橋を鈴木悠太がかわし、オープニングラップをトップで戻ってくる。鈴木の後方には中井、吉田馨(DragoCorse/TM)が続く、特に中井は鈴木との間隔を縮め、背後へと接近していく。

しかし、トップの鈴木もその中井のペースに合わせるかのように一定のペースでラップを重ね、仕掛けられる距離までの接近は許さない。最後まで中井を従えて周回を重ねていった鈴木が、僅差の逃げ切りで開幕2連勝。中井はフェアリングペナルティで降格となり、2位吉田、3位は落合蓮音(EXPRIT/TM)が入った。

●鈴木悠太／優勝ドライバーのコメント

逃げ切る作戦でスタートし少しずつペースアップしていきました。中井選手が迫ってきましたが、ペースを保って走っていれば大丈夫だと思っていました。まさかの2連勝ですごく嬉しいです。次回の瑞浪大会は、まだ出場するか決めていませんが、もし出ることになったらまた連勝できるように頑張ります。

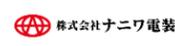
title sponsor



series sponsors



series partners



[Junior] 関口瞬が繰り上げ優勝！



第2戦決勝も16周。ここで好ダッシュを見せたのが楠本心真。1周目にトップに立つとレースを引っ張っていく。2周目、酒井がトップに立ち、さらに松井沙麗も楠本をかわし2番手へ。松井はその勢いのまま、5周目には酒井も交わしトップに浮上する。その後は松井、酒井、澤田がトップグループを構成。やや離れて坂野太紘、元田心絆、白石、関口瞬らが続いていく。

終盤に入ってもトップ争いは激しく順位を入れ替えるバトルとなったため、後続が接近してくる。セカンドグループの先頭には関口が上がり、トップグループとの間隔を縮めていく。

最終ラップ、25Rで仕掛けトップに立ったのは澤田。そのまま澤田、酒井、松井の順でチェッカーとなるが、澤田と松井はカウルパネルティ、酒井はレース中の危険行為で失格となり、4番手フィニッシュの関口が繰り上がりで優勝となった。

●関口瞬／優勝ドライバーのコメント

自力で優勝したかったです。最後、追いつきたかったのですが追いつけませんでした。ただ、結果として優勝できたことは良かったと思います。

[Cadets第2戦] 森谷永翔が開幕2連勝！



第2戦決勝ではPPスタートとなった森谷が好スタートでホールショット。松尾、横山、林らが続いていく。2番手争いが始まる中、トップを走る森谷が徐々に集団を引き離していく。バトルでペースが上がらない後続を尻目に、5周すぎにはリードを1秒以上にまで広げていく。

その後、集団を抜け出した横山が差を縮めていくと、10周すぎには背後にまで接近し、12周めの25Rで逆転。第1戦の雪辱なるかと思われたが、再び森谷がトップを奪い、さらに林が2番手の横山に襲いかかったことから、またも森谷がリードを得ることに成功。そのままチェッカーを迎え2連勝を飾った。

●森谷永翔／優勝ドライバーのコメント

めっちゃ嬉しいです。追いつかれても自信を持って走っていました。次の瑞浪も連勝したいです。

[Shifter第2戦] 丸山陽平がポールトゥウィン！



第2戦のポールポジションは丸山陽平。第1戦ではスタートに失敗し大きく順位を落としているだけに、今回もスタートは注目された。

ホールショットは2番グリッドからスタートした東。丸山も無難にスタートを切り2番手で周回を重ねていく。6周目、1コーナーのブレーキングで丸山が前に出てトップを奪取。その後は東をぐんぐんと引き離していき、5周ほどで約1秒のリードを得る。最後までペースの落ちない丸山がそのまま逃げ切り、優勝を飾った。

●丸山陽平／優勝ドライバーのコメント

スタートは、第1戦で失敗していたので、いいスタートというよりも普通に進む、普通のスタートを心がけていました。前に行かれてしまったのは、まずいなとは思いましたが、その後冷静に対応できて、逆転できるなって思えたのでプッシュして攻めていきました。第1戦ですごく悔しい思いをしたので、その分も嬉しかったです。

title sponsor



series sponsors



series partners

